

2025年12月13日(土)、札幌学院大学を会場に「**第5回 高校生ビジネスプランコンテスト**」の最終プレゼン審査が行われました。本大会は、他のビジネスコンテストで入賞したプランも参加可能なレベルの高い大会で、全道から選ばれた15チームが最終審査に進出しました。本校・平岸高校からは、4チームが最終プレゼンテーションに進出(当日は1チームが体調不良により欠席)し、生徒たちは7分間のプレゼンテーションと、審査員からの鋭い質問にも落ち着いて対応する姿を見せていました。



結果発表では、3年生の佐藤さん・黒田さんによる「**現在地周辺のスーパーの割引セール内容が分かるアプリ**」というビジネスプランが奨励賞を受賞しました。惜しくも入賞を逃したチームも、他校の発表から多くの刺激を受け、次の挑戦への意欲を高めている様子でした。



平岸高校では、探究活動の一環として「平岸マイプロジェクト」を3年前にスタートし、ビジネスプランコンテストへの応募を始めてから3年連続で奨励賞を受賞しています。生徒一人ひとりの問いから生まれた挑戦が、確かな成果として積み重なっています。



また、昨年度の本コンテストで「**少子高齢化をプラスに捉えた地域空間【Alpha】**」というビジネスプランにより奨励賞を受賞した3年生の初沢さんは、受賞後もプランの実現に向けて活動を続けています。

先日には、ミニ児童会館を会場に「平岸高校生が児童に習い事を教える」企画を立ち上げ、募集を行ったところ、16チーム(46名)もの応募がありました。冬休み明けには、スライム作り・百人一首・折り紙・ダンスなど、それぞれのチームのアイデアを生かした学びのイベントを3日間にわたって実施する予定です。一人の挑戦が周囲を巻き込み、地域へと広がっていく好循環が生まれています。



さらに、12月18日(木)には校内にて「**平岸マイプロジェクト校内発表会**」が行われ、主に1・2年生がこれまでの探究活動の成果を発表しました。生徒たちは、自ら見つけた社会課題とその解決策、トンボの生態に関する調査と考察など、多様なテーマについて堂々と発表しました。

発表を聞いた生徒や教員からは、「ゲームを活用して過疎地に人を集める発想が素晴らしい」「不登校に悩む人を救える可能性のあるアイデアだと思った」



「新しい医療の形として、高齢者や子どもがより快適に過ごせそう」「前年度の経験を生かして新しいアイデアを生み出しているのがすごい」「トンボへの熱意が伝わってきた」

など、多くの前向きな感想が寄せられました。発表会終了後には、平岸マイプロジェクトの活動に興味を持ち、新たに参加を申し込む生徒の姿も見られました。先輩の発表を見て刺激を受け、「自分も挑戦してみたい」と感じた生徒が、次の担い手として動き出しています。



平岸マイプロジェクトは、成果を発表して終わりではありません。

生徒一人の問いや挑戦が、次の挑戦者を生み出し、学校全体へと広がっていきます。平岸高校では、これからもこの「主体性の連鎖」を大切にしながら、生徒の学びと成長を支えていきます。

校内用ポスター
作: 和田さん(2年)

